

野釜大橋が開通

天草郡大矢野町の本島と野釜島を結ぶ「野釜大橋」の開通式が7月23日関係者や地元の人たち五百人が出席して行われた。

野釜島は周囲3kmの小島。127世帯で505人が住んでいる。これまで島民の足は同町江樋戸と野釜港を往復する一日10便の定期船であったため、風雨の強い時、急病人が出た時など不便を強いられていたが、大橋の開通により解消された。



省会に参加され、来年度の計画等、共に検討されました。

昭和四十一年 阿蘇町健康を守る婦人の会が結成され、この機に、その中に栄養教室修了生をもって、昭和四十一年八月二十三日栄養部会が設置されました。これが、現在の栄養改善協議会となったわけで、大がかりな組織結成が出来ました。

一方町当局は、この年迄町内五十二地区の公民館を新築して調理室を完備しました。また、この年から町民の意識高揚の為、広く一般に公開し、町全体の普及、発展を図る為、栄養改善大会を二日間に行われ開催し、現在迄毎年実施し、町民及び他町村からの視察も有り好評を得ています。

昭和四十五年 阿蘇町は再び濃密指導地区として、町内で一番貧血者が多く、受診率の高い地区を選定し、町立病院や保健所等の医療機関と共に、五年計画で健康診断事業を行い、生活時間の調整指導や、健康診断の事後指導に徹底しました。その結果、貧血を追放し、疾病統計上に疾病減少をみる事が出来ました。もちろん五年間の長い期間、部署推進員を初め、全地区の人達が健康づくりに目覚め、よく指導者の話を聞き、実施協力された事が効果をあげたものだと思います。

昭和五十一年 栄養改善特別対策として、国の指定を受け受診率の高い農村部、二地区七十二戸を重点地区に定め、特別対策推進員二十名を委嘱し、栄養教室の伝達講習に併せて健康診断を実施し、研修会、講習会を開き、又、戸別訪問指導して多くの効果をあげました。

昭和五十三年 重点施策として、国民健康づくりを国から打出されたことから、阿蘇町はいち早くこの事業に取組みました。成人病予防対策と母子の健康増進と云うスローガンをかけ、在宅栄養士を雇い、各地区の伝達講習の再検討を行い、未端浸透にさらに拍車をかけました。育児学級、若妻学級、母親学級、婚前学級等を小区域毎に実施しました。特に家族計画(授胎調節)等は母性保護の面から見ても、ひきつづき実施する必要があることから協議会と協力し、現在も継続実施しております。

昭和五十四年(婦人の健康づくり推進事業指定) 健康づくり指導車を購入し、後に述べます病態別栄養指導に活用しました。同時に本年初めて実施した婦人の健康づくり健診は、一応九百名を目標にしておりましたが、推進員の協力により千七百六十二名の受診者がありました。その受診者の内容で、貧血一〇%、高血圧一〇%、その他の疾患八%の異常者が出ました。その異常者に対しては昭和四十九年から実施している保健所の病態栄養コン

サルタント事業に併せて、健康づくり指導車により、町内四十五地区に巡回し、学級を開き、千四百九名の保健相談及び食事指導等を行いました。

その内容は、

- 一、町立病院の医師及び開業医の先生により、疾病の正しい知識と予防と薬の副作用について
- 二、町保健課の担当者により、国保の現状や、正しく医師にかかること
- 三、保健婦により、疾病の正しい知識と心の使い方、ストレス解消について
- 四、病態栄養コンサルタント栄養士により塩分の味覚テストや病態別の食事の実演指導や試食会を実施し、長生きの為の正しい食生活等を話す

等で好評の内に成果をあげました。この事業を実施して、国民健康保険の医療費を前年度より一千二百万円を下げる事が出来ました。この様な事で、関係者一同びっくりしているところです。とかく現在社会は病気をしたらすぐ薬に頼り、無駄な医療機関を廻り、薬の副



▲栄養教室

作用により、かえって病状を悪化させている町民が非常に多い事を知りました。この病態栄養事業は昭和四十九年から六年間継続実施中でありますが、町民に接し、指導者も、もう一度ここで考えを新にし、出来るだけ薬に頼らず、正しい食生活と、正しい生活で疾病を予防し町民が本當の意味での健康になられるよう今後共、この事業を続けていきたいと思えます。